３　平成30年度　学校関係者評価委員による評価結果について

評価基準	４：十分達成できている。　３：おおむね達成できている。 ２：やや不十分である。　１：不十分である。					
	評　価　項　目	委員Ａ	委員Ｂ	委員Ｃ	委員Ｄ	委員Ｅ
1	学校運営・教育活動において，重点的に取り組む必要のある項目を焦点化し，重点目標が適切に設定されていたか。	4	4	4	4	4
2	児童生徒が生き生きと活動し，活気のある学校であったか。	4	4	4	4	4
3	医療・福祉・労働等の各関係機関との連携に努めていたか。	4	4	4	4	4
4	地域の特別支援教育のセンター的役割を果たしていたか。	4	4	3	4	4
5	自己評価項目は，全体的に見て適切に設定されていたか。	4	4	3	4	4
6	自己評価が全校体制で行われていたか。	4	4	4	4	4
7	自己評価が計画的に実施され，結果を受けて必要な事については，対応・対策を取っていたか。	4	4	4	4	3
8	自己評価の結果を，次の教育活動の改善に活用していたか。	4	4	3	3	4
9	保護者へのアンケートが実施され，意見・要望に対して対応・対策を取っていたか。	4	4	4	3	3
10	児童生徒へのアンケートが実施され，アンケート結果に対して対応・対策を取っていたか。	4	4	2	3	4
	合　計	40	40	35	37	38
	平　均	4	4	3.5	3.7	3.8
				全体平均		3.8

学校関係者評価委員からの提言・意見

- 学校に行けない子供たちへの支援を協力して頑張りたい。
- 就学相談へ参加を気兼ねなく行けるようにできるようにしていきたい。
- 増加する特別支援対象児や生徒へのより充実した学校支援を図るとともに，未就学児の保護者への啓発（障害者手帳の有用性等）に取り組んでほしい。
- 業務改善を叫ばれているにもかかわらず，業務は増える一方であることから，行事の精選は積極的に行う必要がある。
- 保護者評価が高いと言うことは，信頼関係があるということ。12年間で得られるのものがあり，就職につがっている。
- 性の指導をする際の悩みや工夫はほかの地域の動向や他県の実践を参考にしてほしい。
- 女性への自分で自分を護るという視点での指導も取り入れてほしい。